勝浦小学校　学校だより

MARUKATSU COMMUNITY SCHOOL

10月号
令和3年　10月　1日　号
福津市立勝浦小学校
文責：校長　花田　武美

主体的な学びが探究力と表現力を育てる「夏休み自由研究」発表会

８月３１日（火）に５・６年生が夏休みに取り組んだ自由研究の発表会を行いました。２学期始業式の日から二階の廊下には「研究のまとめ」や作品が展示してあり、多くの児童が熱心に見る姿が見られていました。発表会はグループに分かれ体育館のいくつかの場所で同時に発表し、観る側が順番に入れ替わる方法で行われました。

フリップで発表する６年生

廊下に展示されている様子

５年生の発表を熱心に聴いている６年生

研究の内容が一人ひとりの身近な疑問や課題からスタートしていて、それを自分なりの探究方法で取り組み「研究のまとめ」や作品になっていることを、分かりやすく説明することができていました。これからの時代に求められている探究力と表現力が育っている姿が実感できる学習の様子でした。

学校の取り組みを確認する「学校評価」について

学校評価は、子どもたちがよりよい教育を受けられるように、その教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざすための取り組みです。本校では、まず児童・保護者のアンケート結果をもとに、教師が自らの取り組みを振り返って自己評価をしています。次に、その自己評価をもとに学校としてまとめ、それを学校運営協議会で説明しています。その後、協議委員より、学校関係者評価として、その妥当性と意見をいただいています。その多くの意見として「先生方はもっと評価していいと思います。主役は子どもなので，子どもの評価をもって自信をもってください。」「先生方は充分がんばっていただいています。評価基準の見直しが必要だと思います。」と指摘されたことから、A～Dの評価基準を見直し（０.２点上昇）、一学期の重点的な取り組みの結果が上記の表になりましたことをお知らせします。この結果と改善策を職員全体で共有し、二学期の教育活動を行っています。二学期末に再度アンケートをお願いしますので、ご協力をお願いします。※数値は４段階評定の合計を人数で割ったものです。

本年度の重点方策における　1学期　学校評価

	児　童	保護者	教　師	学　校
1　地域学校協働活動の充実と精選				
①　地域や社会の関心を育む	A(3．7)	A(3．6)	B(3．3)	B(3．0)
②　地域行事への参加を促す	A(3．4)	B(3．3)	C(2．7)	
2　読解力と表現力の育成				
④　主体を生む導入と自己追究活動の工夫	B(3．2)	B(3．3)	C(2．9)	B(3．0)
⑤　読解力を育む指導	B(3．3)	B(3．2)	B(3．0)	
3　生活・運動習慣定着の工夫				
⑥　家庭学習するよさの体得	A(3．6)	B(3．1)	A(3．4)	A(3．4)
⑦　運動するよさの体得	A(3．6)	A(3．5)	B(3．3)	
4　個別支援				
⑩　きめ細かな指導	A(3．6)	B(3．1)	C(2．7)	C(2．7)
5　人材育成				
⑯　校務分掌の推進			B(3．1)	B(3．1)
⑰　不祥事防止			B(3．1)	

４：とても当てはまる
３：まま当てはまる
２：あまり当てはまらない
１：当てはまらない

A：３.４点以上，B：３.４未満~３.０点以上，C：３.０未満~２.６点以上，D：２.６未満

子どもが自立するためには、親の自律がカギ

現在、子どもが失敗しないように転ばないように大人が手を出すことが増えていると感じています。そこで、鷹松弘章さんが「世界基準の子育てのルール」として書かれたものが子育てについて考えるヒントになると考え、一部要約してご紹介します。

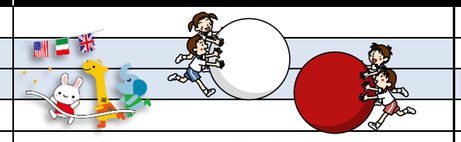
子育ての目標は、社会に出て自分のことは自分でできる大人にすること、すなわち「自立」させることです。そのため、安易に手伝うのではなく、「自分で、できる」を積み重ねさせていくことが大切です。失敗したらいけないから、困っているから手伝ってあげることではなく「今この子がこれを覚え、できることが自立への第一歩だから見守ってあげる」ことが本当の親の優しさです。子どもが初めて自分の足で立てそうな時、応援の気持ちと立てるようにしなければいけないという責任感を感じたと思います。その責任感をもって子どもの行動に関わることが、親の「自律」になります。手伝う判断は難しいですが、子どもが簡単に助けを求める時は、気持ちに共感してあげた後に手伝えない理由を伝えることが大切です。また、簡単に子どもの要望（してほしいこと）を聴かずに責任感を意識し、助けたい思いを抑え見守ることが子どもの自立を促すことになり、自分を律する親の姿になります。

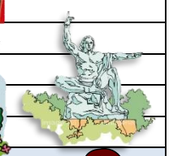
赤ん坊は、転んで立つことを繰り返し立てるようになるように失敗や経験をよい機会と捉えること、子ども時代は、練習期間と考えることが必要です。できなかったこと、やったことのないことができるようになった時に人は自信をもちます。子育ての大きな目標である「自立」は、まずは親の冷静な判断のもと機会をとらえ、子どもが挑戦する瞬間を生み出すことがとても大切だと思います。

10･11月の行事予定

※感染状況等で変更もあります。学校からのメールや通信で確認をお願いします。

日	曜	１０月行事予定	日	曜	１１月行事予定
1	金		1	月	実践交流会準備　※児童下校 14:50
2	土		2	火	福津市ＣＳ実践交流会　※第４回学校運営協議会
3	日		3	水	文化の日　※児童下校 14:45
4	月		4	木	外国語、アクロス学校キャラバン事業（５・６年）　家庭学習チャレンジ・ウィーク
5	火	おはよう Tuesday（６年）中運動会、児童下校 13:10	5	金	マル勝タイム、外国語
6	水		6	土	土曜授業、福津市一斉防災訓練、ひきわたし訓練
7	木	外国語、郷育ガレッジ（人形浄瑠璃見学）	7	日	
8	金	運動会準備、PTA 評議委員会　8:45 開会 ☆順延はプリント参照	8	月	
9	土	マル勝まつり＆運動会だヨ全員集合	9	火	おはよう Tuesday（３年）
10	日	順延日①　終了後：PTA 役員選考	10	水	定時退校日
11	月	代休（マル勝まつり＆運動会だヨ全員集合）順延日②	11	木	４日～10 日
12	火	おはよう Tuesday（５年）	12	金	全校朝会　委員会活動、外国語
13	水	修学旅行説明会（６年）14:40、順延日③	13	土	
14	木	代表委員会　外国語、耳鼻科健診１・４年	14	日	
15	金	委員会活動　外国語	15	月	
16	土		16	火	おはよう Tuesday（保護者）　観劇会
17	日		17	水	
18	月	環境学習（４年）	18	木	修学旅行　外国語
19	火	稲刈(３～６年)※雨天順延、おはよう Tuesday（保護者）	19	金	修学旅行　外国語
20	水	お話会（４・５・６年）、稲刈予備日	20	土	
21	木	個人懇談１日目	21	日	
22	金	個人懇談２日目　外国語	22	月	三校人権・同和教育実践交流会
23	土		23	火	勤労感謝の日
24	日		24	水	
25	月	外国語、租税教室（６年）	25	木	お話会（１・２・３年）
26	火	おはよう Tuesday（４年）	26	金	クラブ活動　外国語
27	水		27	土	
28	木	外国語	28	日	
29	金	外国語、クラブ活動	29	月	
30	土		30	火	おはよう Tuesday（２年）
31	日				





全国学力・学習状況調査および福岡県学力調査結果について

第６学年を対象に、令和３年５月２７日（木）に実施された全国学力・学習状況調査の結果と第5学年を対象に、６月１５日（火）に実施された福岡県学力調査の結果をお知らせします。また、この調査結果をもとに本校教育の成果と課題を分析し、今後の改善・充実のための取組をお知らせいたします。

１　全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査について

【　調査の目的　】

◇　全国学力･学習状況調査

①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇　福岡県学力調査

①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握･分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②各市町村教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持･向上を支援する。

③各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

【　調査の内容　】

実施学年		調査内容
第６学年	教科調査 （国語・算数）	1.身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 2.知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 ☆調査問題では，上記１と２を一体的に問うこととする。出題形式については，国語及び算数・数学においては，記述式の問題を一定割合で導入。
	質問紙調査	学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関して選択式で問う。
第５学年	教科調査 （国語・算数）	基礎・基本の問題から活用問題までを含めての問題構成。設問形式は、選択式や記述式の問題が混在している。

以上の目的と内容を踏まえ、本校では学力状況調査の結果を次のようにとらえています。

調査の結果は、児童が身につけるべき学力の一部であることから、単に、正答率に注視することで終わるのではなく、現状の分析と今後の取組、課題を解消するための授業指導技術の向上の大切な資料として活用する。

また、学校だけの成果や課題で完結するのではなく、コミュニティ･スクールの強みを生かし、学校･家庭･地域の三者が協働して子ども達の学力向上に取り組んでいく。

２　教科調査の結果（平均正答率）

６年生は、国語・算数とも全国平均・福岡県平均より上回っている。５年生は、国語･算数とも福岡県平均･福津市平均より上回っている。「主体的に課題を見出し、学び合いを通して考えを深め、学びの有用感を味わう子どもの育成」をめざして授業に交流の場面を位置付け、主体的な学びで思考力・表現力の育成を図った成果だと考えている。

３　児童質問紙（６年生）の結果とその分析

質　問　項　目	全国平均との比較
① 将来の夢や目標を持っていますか。	△上回っている。
② 人の役立つ人間になりたいと思いますか。	▽やや下回っている。
③ 自分にはよいところがあると思いますか。	△上回っている。
④ 自分でやると決めたことは，やり遂げるようにしていますか。	△やや上回っている。
⑤ 地域の行事に参加していますか	△上回っている。
⑥ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	△上回っている。
⑦ 新聞を読んでいますか	△やや上回っている。
⑧ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	ほぼ同じ。
⑨ 人が困っているときは、進んで助けていますか。	△上回っている。
⑩ 思っていることや感じていることを言葉で表すことができますか	△上回っている。
⑪ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	△上回っている。
⑫ 内容や相手の考えを聞き，受け止めて考えをしっかり伝えていましたか	△上回っている。
⑬ うまく伝わるように資料や文章，話の組立てを工夫し発表しましたか	△上回っている。
⑭ 授業は，自分にあった教え方，教材，学習時間などになっていましたか	△上回っている。
⑮ 課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか	△やや上回っている。
⑯ 話し合う活動で，考えを深めたり，広げたりすることができていますか	△上回っている。
⑰ 分かる分からないを見直し，次の学習につなげていますか	△上回っている。
⑱ 授業時間以外に，平日 **30 分**以上読書をしますか	△上回っている。
⑲ 平日、学校の授業以外で１時間以上勉強していますか。	△上回っている。
⑳ 家で自分で計画を立てて勉強していますか。	△やや上回っている。

≪将来の生き方･社会力について≫

○　①～⑦から自分のよさを認め、将来への夢や目標を持っている子どもは多いが、人の役に立つ人間になることをめざす子どもはやや少ない。多くの子どもが最後までやり遂げた成就感を持っており、難しいことにも挑戦している。新聞を読んでいる児童が比較的多く、地域行事に参加した経験などから地域や社会のために何ができるかを考えている児童が多くいる。ふるさと学習の成果として社会力の育ちがみれるが、キャリア教育の視点で体験を見直し、働くことや人との関りに気づかせる工夫を行う必要がある。

≪倫理性について≫

○　⑧･⑨から、全員がいじめを許さず、困っている人に進んで手を差しのべる高い倫理性が育っていることが分かる。継続して道徳や特別活動の確実な実施と学級づくりの充実を図っていくことが大切である。

≪表現力について≫

○　⑩～⑬から、多くの児童が言葉で表現することが得意で自分とは異なる意見も楽しむことができる。交流の際には、相手の考えをしっかり聞いた上で自分の考えを伝えることができ、より効果的な表現の工夫を行うことができることが分かる。少人数であるが交流するよさを実感していて、表現力の育ちが看取れることから、表現する場を多く設定し、表現方法を広げ、技術を高める手だてが必要である。

≪学び合う授業について≫

○　⑭～⑰から、多くの児童が「個別最適な学び」で主体的に授業に臨んでおり、対話活動を通じて学びを深め、振り返りを行うことで，次の学習につなげている。現在、取り組んでいる学び合う授業づくりの成果が表れており、これからもこの授業スタイルの継続と効果を上げる工夫を行っていく必要がある。

≪家庭学習について≫

○　⑱～⑳から、よく本を読んでおり、家庭でも自分で計画を立て１時間以上学習している子どもは多い。今まで取り組んできた「自学」や計画的な宿題を通じて、自分で計画した学習をすることの大切さや家庭と協力した学習の習慣化が図られてきている。これから一人で学ぶ楽しさに気づかせ、量だけでなく質を高める学習についても教えていく必要がある。

４　今後の方策

目的を理解し、文章と図表を結び付けて情報を読み取ったり、中心の語や文を見つけ要約したりする問題に課題が見られることから、「文章表現」について校内研修を行い、「読み取る力」や「表現する力」を身につけさせる手だてについて協議を行っている。読解力や語彙力、作文力を高めるための課題を与えることや授業で言語活動に重点をおいた指導を行っていく。これは、算数においても記述する力が求められていることから、全教科の学習において行っていくことになる。